

2015 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 2 月 6 日作成)

小委員会名	環境行動研究小委員会	主 査 名：西田徹 就任年月：2012 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (計画基礎運営運営委員会)	委員長名：大原 一興 主 査 名：西出 和彦
設 置 期 間	2012 年 4 月 ～ 2016 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>[設置目的] 研究会の開催、出版、情報提供を通じて、「体験される環境・場所」に関する研究成果や環境行動研究の基礎的知見の整理・発信を行う。</p> <p>1. 環境行動研究に関する研究会の開催、居場所づくりの方法論に関する検討</p> <p>2. 国内・海外での研究成果発信</p> <p>3. 文献・情報源の整理とデータベース作成、ウェブサイトでの発信</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	西田徹 (武庫川女子大学・主査)、垣野義典 (豊橋技術科学大学・幹事)、田中康裕 (幹事)、伊藤俊介 (東京電機大学)、大野隆造 (東京工業大学)、加藤悠介 (金城学院大学)、鈴木毅 (近畿大学)、橘弘志 (実践女子大学)、林田大作 (大阪工業大学)、松原茂樹 (大阪大学)、水村容子 (東洋大学)、山田あすか (東京電機大学)、小林健治 (摂南大学)、諫川輝之 (東京大学)、前田薫子 (東京大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>■「まちの居場所」研究 WG：環境行動研究的視点から、様々な「居場所」の事例を通して、人間と環境の関係をとらえる方法と理論の錬成を行うとともに、生活者の環境改善・問題解決につながる環境の計画・デザイン・利用・維持・管理のための実践的な知見の抽出を行い、論考を展開する。</p> <p>■災害と人間行動研究 WG：環境行動研究的視点から、自然および技術的災害に関わる人間行動を研究するための方法論および理論構築をめざすとともに、災害に備えるため、あるいは災害からの生活再建を円滑に行うための環境の維持・創造を目指す。</p>	
2015 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s17/

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	公開研究会「変わりゆく北欧社会において継承されているもの ～社会システムと場所の質からよみとく北欧の「ふつう」の生活 その2～」 12 月 12 日 (土) 開催 参加者数 35 名 資料名：変わりゆく北欧社会において継承されているもの
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	<p>1. 2013 年度に開催した「北欧研究会」の続編を開催することができ、環境行動研究的視点から問題意識を更に深めることが出来た。</p> <p>2. 『まちの居場所 (続編)』の刊行に向け、準備を更に進めることが出来た。</p> <p>3. 災害と人間行動研究 WG では、当初目的が果たされ、成果を公開した。</p>
委員会活動の問題点 ・課題	活動内容に偏りが生じてしまったことが問題点である。具体的には、環境行動研究に関する文献の整理やデータベースの作成がうまく進められていないことや HP の更新がなされていないことが課題である。

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。